

## 2020 年度 研究所事業報告書

研究所名	国際言語文化研究所
------	-----------

## I. 研究成果の概要（公開項目） ※1ページ以内にまとめること

本欄には、研究所・センターの実施した研究の成果について、その具体的内容、意義、重要性等を、研究所総合計画(5ヵ年)および 2019 年度重点プロジェクト申請調書に記載した内容に照らし、項目立てなどをおこなうことができるだけわかりやすく記述してください。なお、2019 年度に採択を受けた研究所重点プロジェクトの実績報告は、書式 B に記述のうえ提出してください。

国際言語文化研究所(以下、言文研)は、研究所重点プログラム、研究所独自の萌芽的研究助成プログラムや、研究所企画講演会・シンポジウムに若手研究者を巻き込みながら通年で遂行し、研究成果は学術論文・書籍や研究所紀要として発信してきた。

研究所紀要に関しては、例年通り 2020 年度も「言語文化研究」を 4 号刊行した。内容は、「食と政治—胃袋から支配する」「ベルリンは音楽都市だった？」等前年度の連続講座や講演会関連に加えて、「移民の衣食住」「現代イタリアの知の拡散と集積」「バイリンガル fNIRS 言語脳科学プロジェクト報告」「学習英文法」等の研究所重点プログラムや萌芽研究の成果報告が近年希に見る程の量で発表され、非常に多岐に渡る言文研の研究課題を網羅する充実したものであった。

連続講座はコロナ禍による講演者・聴衆の健康・安全面を考慮して中止したが、研究所重点プロジェクト参加の若手研究者によるリレー講座を 2 月に実施した。内容は、(1) メディアとしての風景と地域の記憶、(2) 書いて配って世界を変える-zine・ミニコミ・フェミニズム、(3) ヴァナキュラーな言語と文化—中世イギリス、江戸時代の越後、植民地時代のキューバを例に、(4) 戦後東アジアをめぐる移動の生活史に関する講演会で、4 幕形式でオンライン実施した(参加者 142 名)。その成果は 2021 年度の紀要誌上で発表される。若手研究者に企画・運営・発表・論文作成の一連の経験を積ませる貴重な機会を提供できた。11 月には、立命館土曜講座を言文研が担当し、「バイリンガリズムと年齢」をテーマに、「子どものバイリンガルの心理」「青年期以降のバイリンガリズム」と題した講座も 2 回オンラインで開催した。

2016 年度開始の研究所重点プログラムは 5 プロジェクトが同時並行で進行しており、5 年目を迎えた。「文化の移動と紛争的インターフェース」は構成員数が 70 人と最も多く、研究成果を 12 本の論文や著書 8 点として発信した。このプロジェクト内には複数の研究グループが存在し、各グループ内での活発な研究活動がこのような成果に繋がった。「バイリンガル fNIRS 言語脳科学プロジェクト」は、園児から成人までの日英バイリンガル対象に縦断データ収集を継続し、上記紀要論文や土曜講座等で社会への還元も図った。「ヴァナキュラー文化の多面的研究」は発足 13 年目となり、ヴァナキュラー文化の交流と循環を主テーマに据え、2020 年度は「仮面劇」についての研究報告会を実施した。「ジェンダー研究会」は「性暴力」「クィア理論」「複合差別とアイデンティティー」の 3 課題に理論的アプローチを試みつつ、2020 年度はフェミニズム・ジェンダー研究とトランス女性排除の問題に焦点を当てた研究活動を進めた。小説書会等での討議・議論を積み重ね、26 点の著書や 40 本の論文執筆に繋がった。「風景・空間の記憶、表象、歴史」は研究の発展と国際的な研究交流を目的として、前年度開催した「ドイツ・モダニズムの黎明期とベルリン」国際シンポジウムの独語版の作成を行った。海外学術誌への論文発表や、武漢やミュンヘンでの研究発表を通して、研究成果の還元を行った。

このように研究所としての研究遂行とその成果発信および社会貢献は、従来予定通り進めることができた。その中で、2020 年度は、コロナ禍による研究所主催連続講座の中止を逆手に取り、若手研究者の育成に従来以上に力を入れた。研究所重点プログラムでは、共同研究や研究会・シンポジウム開催を通して、(国際的)研究成果発信・マネジメント・研究者ネットワーク構築の面で、経験豊かな研究者がメンターとしての役割を果たすように留意してきたが、2020 年度には実際に若手研究者によるリレー講座をおこなった。このような日常的な若手研究者への支援が実り、2020 年度には 4 名が博士論文を提出し、他大学での准教授職等への就職決定が数件あった。

様々な研究会を年度前半には全て中止せざるを得なかったが、次年度以降の研究所の重点プロジェクトに関する議論に多くの時間を費やし、方向性を明確に示すことができたのは、本年度の大きな収穫であった。

## II. 拠点構成員の一覧（公開項目）※ページ数の制限は無し

本欄には、2021年3月31日時点で各拠点にて所属が確認されている本学教員や若手研究者・非常勤講師・客員協力研究員等の構成員を全て記載してください。区分が重複する場合は二重に記入せず、役割が上にあるものから優先し全て記載してください。また、若手研究者の条件に当てはまる場合は、若手研究者欄に記載をしてください。

※若手研究者とは、立命館大学に在籍する以下の職位の者と定義します。

①専門研究員・研究員、②補助研究員・RA、③大学院生、④日本学術振興会特別研究員(PD・RPD)

役割	氏名	所属	職位
研究所長・センター長	田浦秀幸	言語教育情報研究科	教授
運営委員	有田節子	言語教育情報研究科	教授
	ウェルズ恵子	文学部	教授
	小川真和子	文学部	教授
	滝沢直宏	言語教育情報研究科	教授
	西林孝浩	文学部	教授
	中村仁美	文学部	准教授
	内藤由直	文学部	教授
	金友子	国際関係学部	准教授
	仲間裕子	産業社会学部	特任教授
	中川成美	文学部	特任教授
	西 成彦	先端総合学術研究科	特任教授
	岸 政彦	先端総合学術研究科	教授
	河原典史	文学部	教授
	土肥秀行	文学部	教授
	高橋秀寿	文学部	教授
	南川文里	国際関係学部	教授
	吉田恭子	文学部	教授
	坂下史子	文学部	教授
住田翔子	産業社会学部	准教授	
学内教員 (専任教員、研究系教員等)	竹中悠美	先端総合学術研究科	教授
	崎山政毅	文学部	教授
	DUMOUCHEL PAUL G.	先端総合学術研究科	特別招聘教授
	小川さやか	先端総合学術研究科	教授
	加國尚志	文学部	教授
	TAILLANDIER DENIS	国際関係学部	准教授
	安保寛尚	法学部	准教授
	細谷 亨	経済学部	准教授
	三須祐介	文学部	教授
	鳥木圭太	文学部	助教
	平田 裕	言語教育情報研究科	教授
	片桐 葵	言語教育センター	外国語嘱託講師
	鶴野祐介	文学部	教授
	岡本広毅	文学部	准教授
	松本克美	法務研究科	教授

		RAJKAI Zsombor Tibor	国際関係学部	教授
		鳥山純子	国際関係学部	准教授
		坂本利子	産業社会学部	特任教授
		二宮周平	法学部	特任教授
		金成恩	立命館グローバル・イノベーション 研究機構	研究教員(助教)
		川端美季	衣笠総合研究機構 生存学研究所	特別招聘研究教員 (准教授)
		Jackie Kim-Wachutka	言語教育センター	外国語嘱託講師
		Chloe Bellec	言語教育センター	外国語嘱託講師
		岡田 桂	産業社会学部	教授
		柳原 恵	産業社会学部	准教授
		加藤政洋	文学部	教授
		中本真生子	国際関係学部	准教授
		TERROSI, Roberto	言語教育センター	外国語嘱託講師
		COULSON, David	言語教育情報研究科	教授
		西岡亜紀	文学部	教授
		JACKSON, Lachlan	法学部	教授
		藏藤健雄	法学部	教授
		佐野まさき	文学部	教授
		富永京子	産業社会学部	准教授
		金澤悠介	産業社会学部	准教授
		横田祐美子	衣笠総合研究機構	研究教員(助教)
学内の若手研究者	① 専門研究員 研究員 初任研究員	中村雪子	立命館アジア・日本研究機構	専門研究員
		松田智裕	文学部	初任研究員
	② リサーチアシスタント			
	③ 大学院生	柏尾有祐	先端総合学術研究科	一貫制博士課程
		荒木健哉	先端総合学術研究科	一貫制博士課程
		後山剛毅	先端総合学術研究科	一貫制博士課程
		福田浩久	先端総合学術研究科	一貫制博士課程
		栗山雄佑	文学研究科	博士課程後期課程
		八木達祐	先端総合学術研究科	一貫制博士課程
		今里 基	先端総合学術研究科	一貫制博士課程
		佐々木亮	先端総合学術研究科	一貫制博士課程
		小田英里	先端総合学術研究科	一貫制博士課程
		中井祐希	文学研究科	博士課程後期課程
		安藤陽平	文学研究科	博士課程後期課程
		金昇淵	文学研究科	博士課程後期課程
		鈴木陽子	先端総合学術研究科	一貫制博士課程
		青木秀光	先端総合学術研究科	一貫制博士課程
		浅山太一	先端総合学術研究科	一貫制博士課程

	権藤千恵	先端総合学術研究科	一貫制博士課程
	平安名萌恵	先端総合学術研究科	一貫制博士課程
	OUYANG, Shanshan	先端総合学術研究科	一貫制博士課程
	酒向溪一郎	先端総合学術研究科	一貫制博士課程
	有馬恵子	先端総合学術研究科	一貫制博士課程
	松本彩見	先端総合学術研究科	一貫制博士課程
	SHI, Lnghui (石)	言語教育情報研究科	修士課程
	GUO, Xiangting (郭)	言語教育情報研究科	修士課程
	DONG, Jianqiu (董)	言語教育情報研究科	修士課程
	古谷やす子	文学研究科	後期課程
	山崎 遼	文学研究科	博士課程後期課程
	猪熊慶祐	文学研究科	博士課程後期課程
	盧静陽	文学研究科	博士課程後期課程
	中谷可惟	文学研究科	博士課程後期課程
	三木菜緒美	文学研究科	博士課程後期課程
	サーミ・ジャン・カーリマン	文学研究科	博士課程後期課程
	秋吉大輔	文学研究科	博士課程後期課程
	宮田絵里	文学研究科	博士課程後期課程
	岩本知恵	文学研究科	博士課程後期課程
	森祐香里	文学研究科	博士課程後期課程
	王洋	文学研究科	博士課程後期課程
	張憲	先端総合学術研究科	一貫制博士課程
	橋本真佐子	先端総合学術研究科	一貫制博士課程
	④ 日本学術振興会特別 研究員(PD・RPD)	BOVA, Elio	立命館大学
その他の学内者 (補助研究員、非常勤講師、研究生、研修生等)	原 佑介	先端総合学術研究科 国際言語文化研究所	授業担当講師 客員協力研究員
	田中壮泰	文学部 国際言語文化研究所	授業担当講師 客員協力研究員
	木下 昭	国際関係学部	非常勤講師
	佐藤 量	先端総合学術研究科	非常勤講師
	池田啓悟	文学部	非常勤講師
	武田悠希	文学部s	授業担当講師
	川内有子	文学部	授業担当講師
	池内靖子	立命館大学	名誉教授
	SGARBI, Federica	文学部 国際言語文化研究所	授業担当講師 客員協力研究員
	山本真紗子	文学部	授業担当講師
客員協力研究員	大野藍梨	国際言語文化研究所	客員研究員
	島田 龍	人文科学研究所	客員研究員

	宮下和子	鹿屋体育大学 放送大学	名誉教授 非常勤講師
	西山淳子	和歌山大学	准教授
	海賓康臣	九州歯科大学	講師
	加藤昌弘	名城大学	准教授
	姫岡とし子	東京大学	名誉教授
	仲間 絢	東京藝術大学	学振特別研究員 (PD)
	堀江有里	清泉女子大学	非常勤講師
	磯部直希	多摩美術大学	非常勤講師
	今野裕子	亜細亜大学	講師
	小林善帆	京都造形芸術大学大学院	非常勤講師
	大村和正	大和大学	准教授
	櫻澤 誠	大阪教育大学	准教授
	玉野井麻利子	University of California, Los Angeles Department of Anthropology	Professor
	FABBRETTI, Matteo	国際言語文化研究所	客員研究員
	阪本佳郎	国際言語文化研究所	客員研究員
	FARNE', Federico	ボローニャ大学	非常勤講師
その他の学外者	山口真紀	神戸学院大学 全学教育推進機構	特任講師
	佐々木ボグナ	京都大学	非常勤講師
	野村真理	金沢大学	名誉教授
	久野量一	東京外国語大学	教授
	大辻 都	京都造形芸術大学	教授
	中村隆之	早稲田大学	准教授
	佐久間寛	東京外国語大学 AA 研	特任研究員
	寺尾智史	宮崎大学	准教授
	大澤真幸	麗澤大学	客員教授
	後藤玲子	一橋大学	教授
	長谷川唯	日本学術振興会	特別研究員(PD)
	村田裕和	北海道教育大学旭川校	准教授
	泉谷 瞬	大谷大学	講師
	友田義行	甲南大学	准教授
	禰美智章	追手門学院大学	講師
	飯塚隆藤	愛知大学	准教授
	石田智恵	早稲田大学	常勤講師
	孫美幸	大阪大学	講師
湊 圭史	松山大学	教授	

	Isabel Fassbender	同志社女子大学	助教
	丸山里美	京都大学	准教授
	梁仁實	岩手大学	准教授
	木村朗子	津田塾大学学芸学部	教授
	岡野八代	同志社大学グローバル・スタディー ズ研究科	教授
	上野千鶴子	東京大学 認定 NPO 法人ウイメンズアクション ネットワーク(WAN)	名誉教授 理事長
	岩川ありさ	法政大学国際文化学部	准教授
	大谷通高	大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 総合地球環境学研究所	技術補佐員
	庄婕淳	惠州学院(中国)	専任教員
	三木順子	京都工芸繊維大学	准教授
	ジョス・デ・ムル	エラスムス大学	教授
	ゲイル・レヴィン	ニューヨーク市立大学	教授
	マルコ・ボア	ラフバラー大学	PD プログラム・ディ レクター
	田所辰之助	日本大学	教授
	番匠健一	同志社大学	研究員
	櫻井悟史	滋賀県立大学	准教授
	LIONG, Mario		
	佐久間香子	東北学院大学	講師

研究所・センター構成員 計 162 名 (うち学内の若手研究者 計 42 名)

### Ⅲ. 研究業績 (公開項目) ※ページ数の制限は無し ※to be published,の状態の業績は記載しないで下さい。

本欄には、「Ⅱ. 拠点構成員の一覧」に記載した研究者の研究業績のうち、拠点に関わる研究業績を全て記載してください。(2021年3月31日時点)  
また、書式Bの研究業績欄との二重記載をお願いいたします。

1. 著書							
No.	氏名	著書・論文等の名称	単著・共 著の別	発行年月	発行所、発表雑誌(及び巻・ 号数)等の名称	その他編者・著者名	担当頁数
1	DOI, Hidyuki	Interlinee: studi comprati e oltre		April 2021	Firenze, Franco Cesati Editore		全 204 頁
2	河原典史	カナダにおける日本人水産 移民の歴史地理学研究	単著	2021年3月	古今書院		全 319 頁
3	寺尾智史	ミランダ語が生まれたとき ——ポルトガル・スペイン辺 境における言語復興史	単著	2021年2月	三重大学出版会		全 170 頁
4	寺尾智史	対抗する言語: 日常生活に 潜む言語の危うさを暴く	共著	2021年1月	三元社	柿原武史、仲潔、布 尾勝一郎、山下仁: 編	pp.167-202
5	野村真理	「民族自決」という幻影—— ハプスブルク帝国の崩壊と 新生諸国家の成立	共著	2020年11月	昭和堂	大津留厚編	pp.15-35
6	NISHI, Masahiko	Holokaust i Hiruszima w perspektywie porównawczej.	co-author	2020	Instytut Badań Literackich (Poland)	KATO, Ariko i Jacek Leociak (red.)	pp.51-73

		<i>Pamięć o II wojnie światowej w Polsce i Japonii</i>					
7	中村隆之	BLACK LIVES MATTER: 黒人たちの叛乱は何を問うのか	共著	2020年8月	河出書房新社	河出書房新社編集部編	pp.56-63
8	NAKAMURA, Takayuki	<i>douard Glissant et Le Discours antillais : la source et le delta</i>	co-author	October 2020	Éditions de l'Institut du Tout-Monde (France)	Dominique Aurélia, Laura Carvigan-Cassin (rad)	pp.219-224
9	坂下史子	ニュースで深掘り英語 Vol.2 (2020 秋/冬)	共著	2020年9月	ジャパンタイムズ出版		pp.94-95, pp.126-127
10	鶴野祐介	スコットランド文学の深層場所・言語・想像力	共著	2020年5月	春風社	木村正俊、三原穂ほか	pp.29-49
11	鶴野祐介	子どもの替え唄と戦争 — 笠木透のラスト・メッセージ —	単著	2020年8月	子どもの文化研究所		全230頁
12	鶴野祐介	センス・オブ・ワンダーといのちのレッスン	単著	2020年12月	港の人		全248頁
13	安保寛尚	マリオ・バルガス・リョサ―告発の語りの重層性	共著	2021年1月	『ラテンアメリカ文化辞典』、丸善出版株式会社	関雄二ほか編	pp.494-495
14	岡本広毅	中世英語英文学研究の多様性とその展望―吉野利弘先生 山内一芳先生 喜寿記念論文集	共編著	2020年12月	春風社	菊池清明	
15	上野千鶴子	人生のやめどき	共著	2020年9月	マガジンハウス	樋口恵子	
16	上野千鶴子	あなたの会社、その働き方は幸せですか？	共著	2021年1月	祥伝社	出口治明	
17	上野千鶴子	女の子はどう生きるか 教えて！上野先生	単著	2021年1月	岩波書店		全224頁
18	上野千鶴子	在宅ひとり死のススメ	単著	2021年1月	文藝春秋社		全216頁
19	上野千鶴子	学問の自由が危ない	共著(共編著)	2021年1月	晶文社	佐藤学、内田樹	304
20	上野千鶴子	定点観測1新型コロナウィルスと私たちの社会	共著	2020年9月	論創社	森達也編	pp.55-79
21	上野千鶴子	定点観測2新型コロナウィルスと私たちの社会	共著	2021年3月	論創社	森達也編	pp.53-75
22	吉田恭子	現代アメリカ文学ポップコーン大盛	共著	2020年12月	書肆侃侃房	青木耕平、加藤有佳織、佐々木楓、里内克巳、日野原慶、藤井光、矢倉喬士	複数章
23	吉田恭子	テキストと戯れる	共著	2021年2月	松籟社	高野泰志、竹井智子、中西佳代子、柳楽有里、森本光、玉井潤野、島貫佳代子、杉森雅美、水野尚之、四方朱子、山内玲	pp.115-146
24	木村朗子	『妄想古典教室―欲望で読み解く日本美術』	単著	2021年2月	青土社		全294頁
25	木村朗子	『世界文学としての〈震災後文学〉』	共著	2021年3月	明石書店	アンヌ・バヤール＝坂井他	
26	松本克美	現代家族法講座・第2巻婚姻と離婚	共著	2020年5月	日本評論社	二宮周平編集代表、犬伏由子編	pp.133-165
27	岩川ありさ	BLの教科書 第7章「BL読み」という方法 : BL 短歌、クリア・リーディング、二次創作短歌	単著	2020年7月	有斐閣	堀あきこ、守如子編	pp.88-99
28	柳原 恵	地域女性史における聞き書きの可能性―「地方」とジェンダーの視点から	単著	2021年3月	『ジェンダー分析で学ぶ女性史入門』岩波書店	総合女性史学会編	pp.215-239
29	庄婕淳	『世界の中の和歌―多言語翻訳を通して見る日本文化の受容と変容』	共著	2021年2月	日本古典文学多言語翻訳研究会	フィットレル・アーロン、土田久美子編	p.27, p.81

30	IZUTANI, Shun	"Senility and the Body: Care and Gender in Contemporary Japanese Literature"	co-author	May 2020	"Forms of the Body in Contemporary Japanese Society, Literature, and Culture" Lexington Books	Irina Holca(ed), Carmen Sapunaru Tamas(ed)	pp.125-140
31	泉谷 瞬	『(戦後文学)の現在形』	共著	2020年10月	平凡社、担当章「吉本ばなな『キッチン』「個人的」であり、「個人的」でないこと	紅野謙介、内藤千珠子、成田龍一編	pp.283-288
32	鳥山純子	『イスラーム・ジェンダー・スタディーズ3 教育とエンパワメント』	共著	2020年12月	明石書店、担当章「庶民の夢は潰えたのか——エジプトで進む教育のダブルスタンダード化、	服部美奈、小林寧子編著	pp.150-163
33	鳥山純子	『プライマリー国際関係学』	共著(共編著)	2021年3月	ミネルヴァ書房、担当章「グローバル化とジェンダー」	足立研幾、板木雅彦、白戸圭一、鳥山純子、南野泰義編	pp.131-146
34	鳥山純子	『宗教と風紀(聖なる規範)から読み解く現代』	共著	2021年1月	岩波書店、担当章「現代カイトのロマンチックラブ——恋愛、性、結婚の三位一体——」	高尾健一郎、後藤絵美、小柳敦史編	pp.84-5
35	鳥山純子	『中東・オリエント文化事典』	共著	2020年11月	丸善出版、担当「美の基準」、「エジプト 台所と調理」	鈴木董、近藤二郎、赤堀雅幸編集代表	pp.228-229, pp.656-657
36	金友子	日常生活に埋め込まれたマイクロアグレッション——人種、ジェンダー、性的指向: マイノリティに向けられる無意識の差別	共訳	2020年12月	明石書店	デラルド・ウィン・スー著、マイクロアグレッション研究会訳	
37	金友子	ブリタニカ国際年鑑 2020	共著	2020年5月	ブリタニカ・ジャパン	(担当項目「人間の記録 チョ・ナムジュ」)	
38	二宮周平	『現代家族法講座 第3巻 親子』	共編著	2021年1月	日本評論社、担当章「生殖補助医療の利用と親子関係」	二宮周平、野沢紀雅編	pp.115-140
39	二宮周平	『現代家族法講座 第1巻 個人、国家と家族』	共編著	2020年6月	日本評論社、担当章「家族法理論と立法のあり方」	二宮周平、棚村政行編	pp.1-28
40	梁仁實	『식민지 문화정치와 「경성일보」(경성일보 문학 문화총서 13)(『植民地の文化政治と「京城日報」』)	共著	2021年1月	경성일보 수록 문학자료 DB 구축사업팀, 担当章「영화관객으로 재조일본인을 상상하기- 일본어신문 『부산일보』를 중심으로」	김효순 엮음	
41	住田翔子	はじめてのメディア研究 第2版—「基礎知識」から「テーマの見つけ方まで—	共著	2021年2月	世界思想社	浪田陽子、福岡良明編	pp.250-256
42	三木順子	芸術の価値創造—京都の近代から開ける世界	共著	2021年3月	昭和堂	平芳幸浩、三木順子、井戸美里 共編	pp.323-344
43	NAKAMA, Yuko	Aufbruch der deutschen Moderne und die Kunst in Berlin	編著	March 2021	International Institut für Sprach- und Kulturstudien, der Ritsumeikan Universität	Ralph Gleis, Petra Kuhlmann-Hodick, Hidetoshi Takahashi, Junko Miki, Naoki Sato, Miyuki Ozeki	pp.45-61

## 2. 論文

No.	氏名	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行年月	発行所、発表雑誌、巻・号数	その他編者・著者名	担当頁数	査読有無
1	河原典史	海と漁業—漁村家屋にみる文化的景観—	単著	2020年5月	民俗建築、157		pp.26-36	有
2	河原典史	古くて新しい漁村家屋(京都府伊根町の舟屋家屋)	単著	2020年5月	一般社団法人日本民俗建築学会編著『民家を知る旅—日本の民家 見どころ案内—』彰国社		pp.170-171	無
3	河原典史	カナダの日本庭園—日本人ガーディナーの活躍—	単著	2021年3月	飯野正子・竹中豊総監修『現代カナダを知るための60章(第2版)』明石書店		pp.136-140	無
4	内藤由直	広津和郎「さまよへる琉球人」と資本主義	単著	2021年2月	龍谷大学、國文學論叢、第66輯		pp.62-84	無

		— “見えない糸” を想起する困難—						
5	西 成彦	死者は生者のなかに ①歌の発生・再生・転 生	単著	2020年6月	みすず書房、『みすず』693号		pp.2-17	無
6	西 成彦	死者は生者のなかに ②彼女たちに無用の 苦しみを与えてはな らない	単著	2020年8月	みすず書房、『みすず』695号		pp.44-59	無
7	西 成彦	死者は生者のなかに ③十人の敵でも与え られないほどの害	単著	2020年10 月	みすず書房、『みすず』697号		pp.44-59	無
8	西 成彦	死者は生者のなかに ④抵抗するために生 き、生きるために抵抗 する	単著	2020年12 月	みすず書房、『みすず』699号		pp.46-57	無
9	中村隆之	20世紀末クレオール 論の政治的意義とそ の喪失の今日的意味	単著	2020年6月	越境広場刊行委員会、『越境 広場』7号		pp.78-84	無
10	中村隆之	エドゥアール・グリッサ ン『〈関係〉の詩学』: 汀の足跡、思考の他 者	単著	2020年9月	青土社、『現代思想 9月臨時 増刊号 コロナ時代を生きるた めの60冊』第48巻11号		pp.260-264	無
11	久野量一	スペイン語圏文学	単著	2020年7月	新潮社、『文藝年鑑 2020』 2020年7月		pp.83-85	無
12	久野量一	「ガブリエル・ガルシ ア＝マルケス」魔術 的リアリズムの確立	単著	2021年1月	丸善出版、『ラテンアメリカ文 化事典』		pp.490-491	無
13	TAURA, Hideyuki	Executive Control in Japanese-English Bilingual Kindergartners in Comparison to Monolingual Japanese Children: A Neuro- Cognitive Study		September 2020	立命館大学国際言語文化研究 所、立命館言語文化研究、32 巻2号	KUTSUKI, Aya, TAURA, Amanda	pp.1-12	有
14	鶴野祐介	民話をく語る・聞く> ことと災害・厄災レジ エンス	単著	2020年4月	対人援助学会、『対人援助学 研究』(10)		pp.49-61	有
15	鶴野祐介	不条理と向き合う地蔵 説話の伝承 —「笠地 蔵」「みちびき地蔵」 「地蔵の予告」—	単著	2020年5月	うたとかたりの研究会、『論叢 うたとかたり』(2)		pp.2-19	無
16	安保寛尚	砂糖の秩序、タバコ の caos—フェルナン ド・オルティスの『タバ コと砂糖のキューバ 的対位法』におけるキ ューバ性とカリブ性を めぐって—	単著	2020年7月	立命館大学国際言語文化研究 所、立命館言語文化研究、32 巻1号		pp.75-89	無
17	岡本広毅	中世英語英文学研究 における多様な視点 と研究方法	単著	2020年12 月	『中世英語英文学研究の多様 性とその展望—吉野利弘先生 山内一芳先生 喜寿記念論文 集』、春風社		pp.11-20	無
18	岡本広毅	J.R.R.トールキンの 「ガウェイン論」再考 —“the air of ‘faerie’” の効用を巡って	単著	2020年12 月	『中世英語英文学研究の多様 性とその展望—吉野利弘先生 山内一芳先生 喜寿記念論文 集』、春風社		pp.369-390	無
19	海寶康臣	日本語における副詞 節の後置をめぐって	単著	2020年6月	日本語用論学会、『日本語用 論学会第22回大会発表論文 集』(第15号)		pp.25-32	無
20	加藤昌弘	ヨーロッパ(現代・イ ギリス)——2019年の 歴史学界:回顧と展望	単著	2020年5月	『史学雑誌』129.5		pp.368-373	無

21	山崎 遼	「無学の識者」: Stanley Robertson の 著作に見る当事者に よるスコティッシュ・ト ラベラー像	単著	2021 年 1 月	日本カレドニア学会 /Caledonia/48 号		pp.11-18	有
22	サーミ・ジャン ン・カーリマン	「シンデレラ男」—アメリ カ社会におけるシン デレラ譚の類話として—	単著	2020 年 5 月	うたとかたりの研究会、『論叢 うたとかたり』, (2)		pp.60-71	無
23	盧静陽	『窓ぎわのトットちゃん』と『いたずら者の 馬小跳』をめぐる比較 考察—(いたずら)を キーワードにして—	単著	2020 年 5 月	うたとかたりの研究会、『論叢 うたとかたり』, (2)		pp.130-145	無
24	UENO, Chizuko	Why do Japanese Women Suffer from the Low Status?: The Impact of Neo- Liberalist Reform on Gender		March 2021	Japanese political Economy Vol. 47-1. Special Issue on feminism and gender research in Japan, aylor & Francis On-line		pp.9-26	有
25	欧陽珊珊	障害とセクシュアリティ の交差についての 考察——台湾の肢体 障害/男性同性愛者の 経験から	単著	2021 年 3 月	立命館大学先端総合学術研究 科、『Core Ethics』, 17 号		pp.51-63	有
26	木村朗子	「フェミニズム小説とし ての津島佑子—『笑 いオオカミ』『ナラ・レ ポート』を読む」	単著	2021 年 2 月	『群像』2021 年 3 月号		pp.279-305	無
27	栗山雄佑	眼前のフェンスを(攪 乱)するために—— 又吉栄喜「ジョージが 射殺した猪」論	単著	2020 年 9 月	昭和文学会 『昭和文学研究』 第 81 集		pp.180-194	有
28	栗山雄佑	暴力の記憶を(語る) ために—目取真俊 「眼の奥の森」論	単著	2020 年 9 月	立命館大学人文学会 『立命 館文学』 669 号		pp.26-36	有
29	堀江有里	天皇制とキリスト教へ の一考察 ——身分 差別・性差別・異性愛 主義	単著	2020 年 6 月	キリスト教文化, 第 15 号		pp.55-73.	無
30	堀江有里	キリスト教女性運動に おけるそれぞれの経 験——聞き取り調査 から	共著	2021 年 3 月	富坂キリスト教センター紀要, 第 11 号	大嶋果織、工藤万 里江、山下明子	pp.59-81	無
31	松本克美	異質損害の遅発と時 効起算点	単著	2020 年 8 月	末川民事法研究会,末川民事法 研究, 6 号		pp.35-49	有
32	松本克美	PTSD の法的意義— 直接の身体侵襲を伴 わない PTSD の発症 に対する損害賠償請 求権の消滅時効期間 論も見据えて	単著	2020 年 8 月	立命館法学会,立命館法学,390 号		pp.761-791	無し
33	松本克美	ミニシンポジウム・企 画趣旨・戦後補償問 題は「解決済み」か? —日韓問題を中心に	単著	2020 年 9 月	民主主義科学者協会法律部 会,法の科学,51 号		pp.20-125	無し
34	松本克美	民法旧 724 条後段 20 年期間=除斥期間説 の違憲無効論	単著	2020 年 12 月	立命館法学会,立命館法学,391 号		pp.1202- 1241	無し
35	松本克美	立命館大学法科大学 院における女性と人 権クリニックについて	単著	2021 年 1 月	臨床法学教育学会,法曹養成と 臨床教育,13 号		pp. 21-27	無し
36	松本克美	夫婦の一方が他方と 不貞行為に及んだ第 三者に対し離婚に伴	単著	2021 年 3 月	末川民事法研究会,末川民事 法研究,7 号		pp.39-46	有

		う慰謝料を請求することの可否						
37	岩川ありさ	「バラカ」から「薔薇香」へ：忘却に抗う虚構の強度をめぐる	単著	2020年11月	岩波書店、『思想』1159		pp.60-79	無
38	岩川ありさ	多和田葉子の「星座小説」：『星に仄めかされて』をめぐる	単著	2020年6月	講談社、『群像』75(6)		pp.19-203	無
39	森祐香里	梅崎春生「虹」論—〈パンパン〉である、ということの揺らぎをめぐる	単著	2020年9月	立命館文学(669)、立命館大学人文学会		pp.14-25	有
40	武田悠希	『写真画報』に掲載されたSF冒険小説の講談速記	単著	2021年3月	講談・講談本と近代文学」研究会、奥野久美子編『講談・講談本と近代文学」研究成果報告論集』	奥野久美子、武田悠希、ステイブン・フィラー、総著者数3名	pp.2-13	無
41	庄捷淳	林文月訳『源氏物語』	単著	2020年12月	『海外平安文学研究ジャーナル〈中国編〉』		pp.63-78	無
42	王洋	「〈北京〉の女性像・女性的北京像における二重性——阿部知二『北京』を中心に、	単著	2020年4月	阿部知二研究会、『阿部知二研究』27号		pp.4-18	有
43	王洋	「芥川龍之介「奇怪な再会」論——日清戦争・近代化を背景にした〈狂女〉の生成」	単著	2020年5月	阪神近代文学会、『阪神近代文学研究』21号		pp.15-27	有
44	王洋	「日本看護婦に語られた中国「女傑」——武田泰淳「廬州風景」論——」	単著	2020年7月	論潮の会、『論潮』13号		pp.1-13	無
45	王洋	「絡み合う漢詩文とエドガー・アラン・ポー——谷崎潤一郎「西湖の月」における躑躅小姐像を手がかりに」	単著	2020年9月	立命館大学人文学会、『立命館文学』669号		pp.3-13	有
46	王洋	The multiple oppositions in the image of "Soukinka"- On Ryunosuke Akutagawa's Nankin no Kirisuto, , ,		July 2020	Boya Century Publishing, International Journal of Social Science and Education Research (Volume3 Issue8)		pp.159-163	peer-reviewed
47	王洋	The "Body" Caught between Two Fires: A Comparative Study of The Demon of the Flesh Written by Taijiro Tamura and the Images of Female Communists in Ding Ling's Literary Works		August 2020	Bryan House Publishing, Journal of Social Science and Humanities (Volume2 Issue7)		pp.52-56	peer-reviewed
48	王洋	The Image of "Chinese girl" in Japanese War Literature: Taking Tatsuzo Ishikawa, Ashihei Hino and Hiroshi Ueda as examples		September 2020	PiscoMed Publishing, Lifelong Education (Volume Issue5)		pp.58-62	peer-reviewed
49	王洋	Analysis and Research on Female Images in Japanese Literature in the New Period		November 2020	3rd International Workshop on Education Reform and Social Sciences		pp.93-99	peer-reviewed
50	王洋	「動蕩与变革中的中国女性形象——論芥川龍之介〈湖南的扇	単著	2020年6月	牡丹江大学、『牡丹江大学学报』第29卷第6期、		pp.19-22	有

		子)』						
51	泉谷 瞬	「非日常」の生を透かし見ること——深緑野分『戦場のコックたち』が問い直す前提——」	単著	2020年10月	『文藝論叢』大谷大学文藝学会、95号		pp.18-37	無
52	泉谷 瞬	「甘美なる家父長制——松浦理英子『最愛の子ども』論——」	単著	2021年3月	『文藝論叢』大谷大学文藝学会、96号		pp.30-47	無
53	金友子 (김우자)	제일조선인 여성에 대한 일상적이고 미묘한 차별	単著	2020年6月	『동방학지』, 191집(04)		pp.87-114	無
54	金友子	本の紹介『被差別部落女性の主体性形成に関する研究』	単著	2021年03月31日	『ひょうご部落解放』		pp.96-97	無
55	二宮周平	同性婚導入の可能性と必然性	単著	2021年3月	『立命館法学』393・394号		pp.610-626	無
56	二宮周平	同性カップルの事実婚としての法的保護～2つの事例を素材として	単著	2021年2月	『法学新報』127巻3・4号		pp.449-478	無
57	二宮周平	不妊治療への支援と生殖補助医療のあり方(1)(2)	単著	2021年2月 2021年3月	『時の法令』2115号 『時の法令』2117号		pp.41-47 pp.46-52	無
58	二宮周平	最高裁決定法廷意見と補足意見の意義と課題(性同一性障害者特例法の生殖不能要件に関する最高裁決定)	単著	2020年10月	『国際人権』31号		pp.70-74	無
59	山口真紀	アカデミアにおける女性のための支援——女性研究者支援事業の展開と課題	単著	2020年6月	日本科学者会議『日本の科学者』629		pp.18-23	有
60	梁仁實	「1930年代京城と『女性』表象—2010年代の韓国映画を中心に」	単著	2020年12月	岩手大学人文社会科学部紀要『アルテス リベラレス』107号		pp.145-156	無
61	ベレック・クロエ	20世紀前半の日本における薙刀教育の女性化	単著	2020年12月	日本女性学年研究会、『女性学年報』、第41号		pp.63-86	有
62	川端美季	清潔の指標——習慣と国民性が結びつけられるとき	単著	2020年5月	青土社、『現代思想』・第48巻第7号		pp.170-178	無
63	川端美季	書評:若林悠『日本気象行政史の研究——天気予報における官僚制と社会』東京大学出版会、2019年	単著	2020年5月	立命館大学生存学研究所、『生存学研究』Vol.4		p.55	無
64	NAKAMA, Yuko	Landscape Paintings through the Traveler's View		March 2021	Images, Philosophy, Communication, Hasekura League Intercultural Studies Editions. n.5.	C. Craig, E. Fongaro, R. Milani, J. Tink	pp.63-78	無
65	TAKAHASHI, Hidetoshi	Die nationale Repraesentation in Berlin um die Wende zum 20. Jahrhundert.		March 2021	Aufbruch der deutschen Moderne und die Kunst in Berlin	NAKAMA, Yuko	pp.115-119	無
66	TAKENAKA-KIM, Yumi	The Weight of Snow: The Transition in Snowscape Pictures Toward Documentary Photography in Japan		May 2020	Tainan Art Museum, The Journal of Asian Arts & Aesthetics, vol.6		pp.21-32	無
67	TAKENAKA-KIM, Yumi	The Family of Man in Japan: A Photographic		September 2020	Aalto University, Popular Inquiry, 2020/1		pp.44-55	有

		Exhibition for World Peace and Atomic Culture in the 1950s						
68	MIKI, Junko	Modernität der allgemeinen Kunstwissenschaft		March 2021	Aufbruch der deutschen Moderne und die Kunst in Berlin	NAKAMA, Yuko (Hrsg)	pp.121-128	無
69	NAKAMA, Aya	Eine Überlegung zu dem Blick der deutschen gotischen Skulptur des 13. Jahrhunderts: Optische Theorie und die Visualität des Liebespfeils		December 2020	ART-Dok Publikationsplattform Kunst- und Bildwissenschaften, Bibliothek der Universität Heidelberg		Nr.2020-7124.	有
70	NAKAMA, Aya	Sandro Botticelli's Primavera and the Bridal Mysticism of the Song of Songs: The Flower Symbolism of the Bride and the Gaze of Love's Arrow		March 2021	Images, Philosophy, Communication, Hasekura League Intercultural Studies Editions. n.5.	C. Craig, E. Fongaro, R. Milani, J. Tink	pp.111-123	無
71	磯部直希	内井昭蔵の「花ブロック」にみる戦後沖縄と「装飾の復権」	単著	2021年3月	多摩美術大学『多摩美術大学研究紀要』第35号		pp.93~112	有

### 3. 研究発表等

No.	氏名	発表題名	発表年月	発表会議名、開催場所	その他発表者名
1	土肥秀行	Mishima Yukio e la letteratura italiana, sullo sfondo del suo teatro	June 2020	ボローニャ大学芸術学部アジア演劇講座、ボローニャ大学	
2	河原典史	観光資源としての食—芸術の島「香川県・粟島」の事例—	2020年12月	立命館大学食総合研究センターシンポジウム「食と観光」、立命館大学BKCキャンパス	
3	ウェルズ恵子	《声》の排除の3段階を黒人音楽に探る：奴隷解放からBlack Lives Matter運動まで	2020年12月	「ジェノサイド×奴隷制」研究会、立命館大学	
4	安保寛尚	キューバのブッフオ劇について—黒人の仮面と不敬と不道德のパフォーマンス—	2020年9月	ヴァナキュラー文化研究会(仮面劇研究部会)、立命館大学	
5	安保寛尚	ラモン・ギラオとエミリオ・バジャガスの黒人詩とアンソロジーについて	2020年10月	日本イスパニヤ学会、関西外国語大学(オンライン)	
6	安保寛尚	キューバのブッフオ劇におけるヴァナキュラー言語、およびナショナルリズムの発現	2021年2月	2020年度 国際言語文化研究所 リレー講座：ヴァナキュラーな言語と文化 —中世イギリス、江戸時代の越後、植民地時代のキューバを例に—、立命館大学	岡本広毅、森山武
7	岡本広毅	<i>Sir Gawain and the Green Knight</i> を紐解く —“Unknotting” Gawain	2020年12月	国際アーサー王学会日本支部、オンライン開催	
8	岡本広毅	ゴグマゴグ討伐とブリテン建国—年代記とロマンスにおける巨人像の変遷(シンポジウム ユダヤ・イスラーム・ヨーロッパ文化圏における巨人族表象の変遷)	2020年12月	日本中世英語英文学会、オンライン開催	大沼由布、山中由里子、勝又悦子
9	岡本広毅	中世のヴァナキュラー言語としての英語と英語文学の出發	2021年2月	2020年度 国際言語文化研究所 リレー講座：ヴァナキュラーな言語と文化 —中世イギリス、江戸時代の越後、植民地時代のキューバを例に—、立命館大学	森山 武、安保寛尚
10	岡本広毅	『英詩の父』という仮面 —ジェフリー・チョーサーと中世英語英文学研究の成立を	2021年3月	ヴァナキュラー文化研究会(仮面劇研究部会)、立命館大学(オンライン開催)	

		巡って-			
11	加藤昌弘	スコットランド独立をめぐる日本メディアの言説の検討——沖縄におけるローカリズムとのつながりを考える	2021年1月	日本カレドニア学会第一回研究会、立命館大学(オンライン開催)	
12	猪熊慶祐	皆が皆を笑う—クリスティ・ミンストレルズの笑劇『オセロ』の道化と笑いの仕組み	2020年8月	ヴァナキュラー文化研究会、立命館大学(オンライン開催)	
13	猪熊慶祐	仮面劇研究の現状について	2020年9月	ヴァナキュラー文化研究会(仮面劇研究部会)、立命館大学	
14	猪熊慶祐	ミンストレルの化粧と衣装	2020年12月	もの/モノ研究会、久留米大学	
15	サーミ・ジャン・カーリマン	「シンデレラ男」:アメリカ社会におけるシンデレラ譚の類話として	2020年8月	ヴァナキュラー文化研究会、立命館大学(オンライン開催)	
16	サーミ・ジャン・カーリマン	語りと物語る人間の物理主義的観点からの究明	2020年11月	立命館大学教育人間学会、立命館大学(衣笠キャンパス&オンライン開催)	
17	サーミ・ジャン・カーリマン	仮面の多面性・多層性 - 仮面研究の今日的意味に関する一考察-	2021年3月	ヴァナキュラー文化研究会(仮面劇研究部会)、立命館大学(オンライン開催)	
18	KIM-Wachutka, Jackie	Between COVID-19 and Black Lives Matter: Vulnerabilities and Exclusion in Times of Crisis	September 2020	Sietar Society for Intercultural Education, Training, and Research On-Line Presentation	
19	欧陽珊珊	クィアと障害の交差についての考察——台湾における障害のある性的マイノリティの当事者活動を事例として	2020年10月	日本社会学会 第93回大会、オンライン	
20	欧陽珊珊	障害者のセクシュアリティに関する考察——身体障害をもつ同性愛者の経験を中心に	2020年9月	障害学会 第17回大会 オンライン	
21	木村朗子	Women and salvation in medieval Japan: Gender approaches to The Tale of Heike	March 2021	AATJ 2021 VIRTUAL SPRING CONFERENCE	
22	岡田 桂	ジェンダーからセックスへ? :オリンピック憲章にみるスポーツのセックス(身体)化とLGBT内秩序	2021年2月	スポーツ社会学会 第30回大会研究委員会企画シンポジウム「性の多様性をめぐるスポーツと権力」	
23	松本克美	女性と人権クリニック	2020年6月	臨床法学教育学会,第13回大会	
24	松本克美	夫婦の一方が他方と不貞行為に及んだ第三者に対し離婚に伴う慰謝料を請求することの可否	2020年6月	末川民法研究会,定例研究会	
25	松本克美	コロナ禍で実施した『女性と人権クリニック』	2021年1月	早稲田大学臨床法学研究所,シンポジウム「コロナ禍におけるリーガル・クリニック教育の実践と課題」	
26	松本克美	児童期性虐待被害の修復とく時の壁>	2021年2月	立命館大学人間科学研究所, 創立20周年企画・連続講座「危機と人間科学」・第4回	
27	岩川ありさ	コメント	2020年11月	第42回日本現象学会研究大会【男女共同参画・若手研究者支援ワークショップ】『身体を引き受ける』を引き受ける—トランスジェンダー現象学の展開	オーガナイザー:赤阪辰太郎(大阪大学) 提題者:古怒田望人(大阪大学) 提題者:佐野泰之(立命館大学) コメントーター:岩川ありさ(法政大学)
28	柳原 恵	COVID-19 パンデミックにおけるフェミニズム運動の視座と実践の可能性——南米チリを事例として	2020年12月	ジェンダー史学会 第17回大会、オンライン	パネルD「パンデミック期に再考する社会運動——フェミニスト歴史学者の視座から」
29	柳原 恵	おなごたちと性暴力—『〈化外〉のフェミニズム』から	2021年1月	世代間トーク「ミニコミから#MeTooへ」、岩手県盛岡市(オンライン)	

30	柳原 恵	現代女性運動史の再構築 ——「地域」と「地方」の視 点から	2021年1月	シリーズ・ミニコミに学ぶIV「地域に生きた 女性たちの『フェミニズム』— 『全国女性史研究交流のつどい』報告集前 12回を読む」、オンライン	
31	柳原 恵	フェミニズム以前のフェミニ ストたち——1950-60年代 岩手女子青年たちの生活 記録誌を読む	2021年2月	立命館大学国際言語文化研究所リレー講 座 第2幕「書いて配って世界を変える— zine・ミニコミ・フェミニズム」、オンライン	
32	大谷通高	「ボードゲーム『マナーな 食卓』の制作についての報 告」	2021年3月	日本デジタルゲーム学会、第11回年次大 会	井上明人、三浦麻乃、松井哲也 (Submission 17「シリアスボードゲーム ジャムの生態系:SBGJ2018, SBGJ2019 の事例から」)
33	庄捷淳	『後撰集』175番歌と『古今 集』469番歌の中国語訳	2020年9月3 日	研究会「世界の中の和歌—多言語翻訳を 通して見る日本文化の受容と変容—」、オ ンライン	
34	泉谷 瞬	「すべてが「サービス」化す る社会/すべてを「サービ ス」化する文学」	2020年10月	日本近代文学会秋季大会、Zoom ウェビナ ーによるオンライン開催	
35	TORIYAMA, Junko	“De-politicizing Islam, Re- politicizing Islam: An Inter- Asian Attempt”	25 February 2021	Session2 Islam in Action in Inter-Asian Everyday Lives: Looking beyond Islamophobia, in Asia, Japan, and the Global Society: Developing Research through Cross-Border Academic Collaboration,	
36	김우자	재일조선인의 젠더적 차별 경험과 문제설정	2020年12月5 日	2020 통일인문학 세계포럼 “젠더- 페미니즘에서 본 코리안의 ‘분단’, 그리고 통일구상, 한국 건국대학교 통일인문학연구원, 일본 리츠메이칸대학 코리아연구소, 일본 조선대학교 조선문제연구소, 중국해양대학 한국연구소	
37	梁仁實	『愛の不時着』の日韓にお ける受容	2020年12月 13日	日本ジェンダー史学会パネル D『東アジア におけるコリアン社会のジェンダー』	
38	梁仁實	「『영화도시 부산전사- 일본어신문 『부산일보』를 중심으로』」	2020年8月 21日	한국일본연구단체 제9회 국제학술대회(한국일본학회제100회))	
39	川端美季	「清潔な習慣」と国民性」	2020年5月	オンラインセミナー「新型コロナウイルス感 染症と生存学」オンライン (Zoom)	長瀬修、松原洋子、立岩真也、美馬達 哉、安田真之、大谷いづみ
40	中村雪子	インドにおける『開発とジェ ンダー』から考える『リスク』	2020年9月	国際ジェンダー学会 2020 大会, 個人発表 I, オンライン開催	
41	中村雪子	インドにおける酪農産業の 発展と女性労働に関する予 備的考察——女性酪農協 同組合を中心に	2020年11月	AJI フロンティアセミナー, オンライン開催	
42	NAKAMURA, Yukiko	Muslim in Indian Movies: Revisiting the representations of Gender and Islam	February 2021	The 5th Anniversary International Symposium of Asia-Japan Research at Ritsumeikan University, Session 2 Islam in Action in Inter-Asian Everyday Lives: Looking beyond Islamophobia, Webinar	
43	中村雪子	インドにおける開発政策 としての『女性酪農協同組 合』をめぐるポリティクス ——ラージャスターン州 を中心に	2021年3月	FINDAS2020 年度第2回若手研究者セ ミナー「女たちの権利と活動」, オンライ ン開催	
44	NAKAMA, Yuko	Wie Bruno Taut die Japanische Ästhetik von "Sinn" und "Einfachheit" Entdeckte	3 March 2021	Zentralinstitut für Kunstgeschichte, München (オンライン)	
45	TAKENAKA- KIM, Yumi	Globalization of an art exhibition: Critical responses and a new perspective to The Family of Man	20 December 2020	Challenges and Opportunities: International Forum on the Development of Art Theory in the Era of Great Changes cum High-level Forum on Discipline Development of Art Theory, School of Art and Design, Wuhan University of Technology, 武漢(オンライ ン)	

46	竹中悠美	FSA 写真アーカイブの政治性とその美学	2021年2月28日	日本写真芸術学会、関西支部 第4回シンポジウム、京都芸術大学(オンライン)	
47	竹中悠美	パネルディスカッション 写真のアーカイブについて	2021年2月28日	日本写真芸術学会、関西支部 第4回シンポジウム、京都芸術大学(オンライン)	佐藤守弘、菅谷富夫

4. 主催したシンポジウム・研究会等					
No.	発表会議名	開催場所	発表年月	来場者数	共催機関名
1	イタリアにおけるモダンとアヴァンギャルドの相克—未来派の宣言文を読む	Zoom	2021年3月	20名	
2	2020年度「満洲の記憶」研究会研究大会	Zoom	2020年8月	30名	
3	ジェノサイドと奴隷制研究会「ゲスト:植村邦彦(関西大学)、東琢磨(評論家)」	創思館(+Zoom)	2020年9月	5(+18)	
4	「異端の鳥」上映記念・ミニレクチャー『「異端の鳥」を読む』ゲスト:若島正(京都大学名誉教授)、木村浩之(松籟社)	創思館(+Zoom)	2020年10月	8(+12)	
5	ガリツィア・ユダヤ博物館巡回展記念「記憶の跡をたどって」ミニレクチャー、発表者:篠原琢(東京外国語大学)・西村木綿(日本学術振興会特別研究員 PD)・田中壮泰(立命館大学)	創思館カンファレンスルーム(+Zoom)	2020年11月	12(+10)	主催:ガリツィア・ユダヤ博物館、東京外国語大学海外事情研究所「記憶の跡をたどって」展実行委員会、共催:立命館大学平井嘉一郎記念図書館
6	第2回「ジェノサイドと奴隷制研究会」ヘイトの来歴をさぐる(1)「ゲスト:石田智恵(早稲田大学)、ウェルズ恵子(文学部)」	創思館(+Zoom)	2020年12月	10(+15)	
7	第3回「ジェノサイドと奴隷制研究会」ヘイトの来歴をさぐる(2)(趣旨説明)司会:土肥秀行(文学部)、ゲスト:加藤直樹(著述家)、コメンテータ:原佑介	末川記念会館(+Zoom)	2021年3月	12(+18)	共催:国際言語文化研究所重点プロジェクト「モダニズム研究会」
8	ヴァナキュラー文化研究会 若手研究発表大会	衣笠キャンパス	2020年8月	24名	
9	ヴァナキュラー文化研究会(仮面劇研究部会)	衣笠キャンパス	2020年9月	7名	
10	ヴァナキュラー文化研究会「コロナ禍における通訳の現状と課題」	(オンライン開催)	2021年3月	11名	
11	ヴァナキュラー文化研究会(仮面劇研究部会)	(オンライン開催)	2021年3月	12名	
12	地域に生きた女性たちの「フェミニズム」:「全国女性史研究交流の集い」報告集全12回を読む	(オンライン開催)	2021年1月	300名	認定NPO法人WANウィメンズアクションネットワーク
13	「ネオリベラル・ジェンダー秩序」の時代を考える:菊地夏野『日本のポストフェミニズム—「女子力」とネオリベリズム』合評会	立命館大学朱雀キャンパスおよびオンライン	2020年10月4日	24名	立命館大学生存学研究所
14	ドキュメンタリー映画「I Am Here - 私たちはともに生きている」上映とトーク	立命館大学充光館	2020年12月18日	20名	協力:きんきトランスミーティング
15	「美的問題提起—絶景に住まうは可能か—」	衣笠キャンパス(オンライン)	2020年12月18日	10名	

5. その他研究活動(報道発表や講演会等)				
No.	氏名	研究業績名	発表場所等	研究期間
1	佐藤 量	【新聞インタビュー記事】「満洲の忘却にあらがう」	信濃毎日新聞	2020年6月2日
2	河原典史	カナダ日本人移民史における三尾出身者の再発見『カナダにおける日本人水産移民の歴史地理学研究』の執筆にあたって—	カナダミュージアム公開オンライン講座・移民研究でつながる Vol.3	2021年3月27日
3	ウェルズ恵子	奴隷制以前～1910年代のアメリカ黒人音楽:制度的暴力の巨石の下から	ミュージック・マガジン 2020年8月号(特集「ブラック・ライヴズ・マターとアフリカン・アメリカンの歴史」)	2020年7月10日
4	ウェルズ恵子	「黒人は何を歌ってきたのか」が差別的質問になりうるワケ:「黒人の歌」のイメージからの脱却	現代ビジネス	2020年8月21日

5	ウェルズ恵子	大坂なおみが巻き起こした「大議論」の意味:そして、黒人の歌に訪れる新時代とは	現代ビジネス	2020年9月25日
6	ウェルズ恵子	大統領選で真つ二つのアメリカ、「分断」から何が生まれるのか:「歌」という視点から考えてみると...	現代ビジネス	2021年1月6日
7	坂下史子	「根深い米国の黒人差別ー各地で抗議デモ」	朝日小学生新聞(取材協力)	2020年6月11日
8	坂下史子	「Black Lives Matter が意味するもの」	NHK NEWS WEB(インタビュー)	2020年6月19日
9	坂下史子	「"Black Lives Matter"広がる」	朝日中高生新聞(取材協力)	2020年6月21日
10	坂下史子	「暴力と搾取の歴史ー人種ステレオタイプを例に」	緊急リレートーク「ブラック・ライブズ・マター運動の背景と課題」(京都大学人文科学研究所、慶應義塾アメリカ学会主催 Zoom ウェビナー)(パネリスト)	2020年6月21日
11	坂下史子	「NHK 動画に厳しく抗議 偏った黒人像を作った『400年制度化された差別』」	毎日新聞(インタビュー)	2020年6月24日
12	坂下史子	「Black Lives Matter を考える」	シアターセブン上映会&トークイベント(パネリスト)	2020年6月28日
13	坂下史子	NHK「これでわかった!世界のいま」問題を受けた再発防止研修	NHK 報道局(オンライン)(講師)	2020年7月6日
14	坂下史子	「黒人の表記、『Black』に 米で拡大、敬意示す意味」	朝日新聞(取材協力)	2020年7月7日(デジタル版)、8月7日(紙面)
15	坂下史子	「BLM を考える」	別府ブルーバード劇場 YouTube 企画(パネリスト)	2020年7月8日
16	坂下史子	「差別ってなんだろう? #BlackLivesMatter を通して考える」	立命館大学共通教育センター・オンラインセミナー「SERIES リベラルアーツ『自由に生きるための知性とはなにか』①」(講師)	2020年7月24日
17	坂下史子	「『Black Lives Matter』定まらぬ日本語訳 黒人差別問題に関心を」	毎日新聞(取材協力)	2020年7月27日(デジタル版)、8月1日(紙面)
18	坂下史子	「Black Lives Matter の背景と現状」	みずほ証券機関投資家オンライン勉強会(講師)	2020年8月26日
19	坂下史子	「大坂なおみ選手の『棄権』とは何だったのか、日本で報じられない『抗議の背景』」	現代ビジネス(寄稿)	2020年9月9日
20	坂下史子	「全米オープン優勝の大坂なおみ選手 マスクで世界に発信 人種差別への抗議」	朝日小学生新聞(取材協力)	2020年9月15日
21	坂下史子	「ブラック・ライブズ・マター」	bayFM ラジオ「金つぶ」(インタビュー)	2020年9月25日
22	坂下史子	「あらゆる不平等への抗議」	東京新聞サンデー版「黒人差別を考える」(寄稿)	2020年10月25日
23	坂下史子	「BLM の想像カーナナ・クワメ・アジエイ=プレニャー著『フライデー・ブラック』」	『世界』第938号、228-229頁。(書評)	2020年11月
24	坂下史子	「Black Lives Matter 運動とその背景」	国際人権規約連続学習会(オンライン)第426回(講師)	2020年11月27日
25	坂下史子	「景観の『常識』を問い直すー南部連合のシンボルを例に」	同志社大学グローバル地域文化学会小規模シンポジウム「アメリカ大統領選挙と Black Lives Matter ー勝敗を分けた社会運動に迫る」(パネリスト)	2021年1月15日
26	岡本広毅	「英語のルーツと歴史・民族ー多文化イギリスを映し出すことば」	『時空旅人』2021年1月号 Vol.59「英国王と騎士の物語」	2020年11月26日
27	上野千鶴子	フェミニズムが変えたこと、変えられなかったこと、そしてこれから変えること	Online 開催、共催 認定 NPO 法人 WAN ウィメンズアクションネットワーク・立教大学ジェンダーフォーラム	2020年9月17日
28	KIM-Wachutka, Jackie	Young Leaders Discussion Forum On Career Development: Sempai and Kōhai Network Connection (Workshop)	Ritsumeikan University (On-line Workshop)	January 2021
29	KIM-Wachutka, Jackie	Violence, Conflicts, Vulnerabilities, Conciliations: An Inter-University Youth Dialogue	Ritsumeikan Uni/Doshisha Uni (On-line Seminar), Doshisha University: Prof. Tina Ottmann	December 2020
30	YOSHIDA, Kyoko	University as a Site of Literary Creativity	Online, 京都文学レジデンシー準備委員会	December 2020
31	吉田恭子	文学レジデンシー入門ワークショップ	Online, 京都文学レジデンシー準備委員会	2021年3月

32	堀江有里	戸籍制度から問う家族の形	京都新聞 夕刊 人文知のフロンティア(19)	2020年10月28日
33	堀江有里	フェミニズムと戸籍・婚姻制度	ふえみ・ゼミ(ジェンダーと多様性をつなぐフェミニズム自主ゼミナール)オンラインセミナー「インターセクショナル・フェミニズムの実践に向けて」	2021年3月21日
34	HORIE, Yuri	Introducing Christian LGBTIQ+ networks in Japan	PANAATM (Pacific, Asian, and North American Asian Women in Theology and Ministry) online seminar: Introducing Asian / North American LGBTIQ+ networks	27 March 2021
35	柳原 恵	港区立男女平等参画センター発行『リーブラ 40 年史 団体活動からたどる港区立男女平等参画センター』監修	—	2020年4月～2021年3月
36	柳原 恵	2020年度男女平等参画フェスタ in リーブラリーブラ 40 年史 団体活動からたどる港区立男女平等参画センター』監修者講演	港区立男女平等参画センターリーブラ	2021年2月28日
37	大谷通高	「北九州市市民カレッジ SDGs の視点から見た北九州:ジェンダーと環境問題:北九州市を事例にして」	北九州市・小倉	2021年1月27日
38	TORIYAMA, Junko	“Racism, Anti-oppression and International Affairs”	Global Insights Balsillie School of International Affairs, Canada, <a href="https://www.balsillieschool.ca/global-insights/">https://www.balsillieschool.ca/global-insights/</a>	17 September 2020
39	鳥山純子	『自分の身体は自分のもの?』自分の身体と共に生きていくために	立命館中学校	2020年11月13日
40	鳥山純子	「語られる『ナディア』」	「映画シンポジウム:アジアを知る『ナディアの誓い On Her Shoulders』東京大学 日本・アジアに関する教育研究ネットワーク(ASNET)	2021年2月20日
41	鳥山純子	「ナディアと語る」	「UNHCR WILL2LIVE CINEMA 学校パートナーズ 明治学院大学『ナディアの誓い』映画上映&トーク」明治学院大学国際平和研究所	2021年3月16日
42	金友子	マイクロアグレッションとレイズム	中央大学ダイバーシティセンター教職員対象研修会、オンライン	2021年3月23日
43	金友子	マイクロアグレッションと複合差別	マイノリティ女性フォーラム第1回オンライン学習会(Zoom開催)	2021年3月11日
44	金友子	マイクロアグレッションとレイズム～日常に潜む見えない差別・排除	大阪府立学校人権教育研究会 研修会、オンライン	2021年1月22日
45	中村雪子	彼女の最後の希望はどこへ?——『理想的』開発主体としての少女	立命館大学ライスボールセミナー、オンライン開催	2020年12月
46	竹中悠美	展覧会評 美術いま関西で 50:先住民の今をオンライン美術展で「第22回シドニー・ビエンナーレ」	大阪日日新聞9面掲載	2020年4月28日
47	竹中悠美	展覧会評 美術いま関西で 63:美が結ぶ心のまじわり 高島屋史料館リニューアルオープン記念展「美をあきなう」	大阪日日新聞9面掲載	2020年10月13日
48	高橋秀寿	書評「アネット・ヘス著『レストラン「ドイツ亭」』	産経新聞	2021年3月14日
49	三木順子	実験的な映像ドキュメンテーション・プロジェクト「空間のもつれを写す」(ディレクション)	<a href="https://paratextile.wixsite.com/index">https://paratextile.wixsite.com/index</a>	2020年6月～2021年2月
50	三木順子	インスタレーション・プロジェクト「para・textile 本を編むー繁茂する外延」(ディレクション)	アーツ千代田 3331 内 京都工芸繊維大学 KYOTO Design Lab 東京ギャラリー	2020年9月30日～10月18日
51	仲間裕子	ドイツ・ロマン主義ーカスパー・ダーヴィト・フリードリヒの風景画ー	NHK 文化センター京都教室	2020年8月28日

## 6. 受賞学術賞

No.	氏名	授与機関名	受賞名	タイトル	受賞年月
1					

## 7. 科学研究費助成事業

--

No.	氏名	研究課題	研究種目	開始年月	終了年月	役割
1	佐藤 量	満洲引揚者の生活再建と地域定着をめぐる歴史社会学的研究	若手研究(B)	2017年4月	2021年3月	代表
2	河原典史	「海洋の歴史」研究の構築—領海主権・海洋権益・海洋社会をめぐる	基盤研究(A)	2019年4月	2023年3月	分担
3	河原典史	カナダ契約移民の輩出と渡航後の地域的展開をめぐる歴史地理学的研究	基盤研究(C)	2015年4月	2021年3月	代表
4	河原典史	バンクーバー大都市圏の日本人ガーディナー:技術革新にともなう庭園	基盤研究(C)	2020年4月	2025年3月	代表
5	西 成彦	ホロコースト文学における語圏間の隣接性に関する比較文学的研究	基盤研究(C)	2020年4月	2022年3月	代表
6	中村隆之	両大戦間期パリにおける環大西洋文学の形成をめぐる語圏・地域横断的研究	基盤研究(C)	2019年4月	2022年3月	代表
7	中川成美	世界文学と日本文学—情動理論の共有を基礎として	基盤研究(C)	2020年4月	2023年3月	代表
8	田浦秀幸	日英バイリンガルの言語習得と喪失メカニズム探索 fNIRS 研究	基盤研究(B)	2019年4月	2023年3月	代表
9	田浦秀幸	バイリンガル幼児の言語と心と認知の発達についての縦断的検討研究課題	基盤研究(C)	2020年4月	2025年3月	分担
10	田浦秀幸	日英バイリンガルのアイデンティティー研究	基盤研究(C)	2020年4月	2024年3月	分担
11	田浦秀幸	上海地区の新人英語教員に対する研修と成長—5年間の縦断的研究	基盤研究(C)	2017年4月	2023年3月	分担
12	ウェルズ恵子	ミントレルショーと初期ミュージカルの研究:舞台芸能交流の観点から	基盤研究(C)	2018年4月	2022年3月	代表
13	坂下史子	アメリカ合衆国におけるリンチの歴史の記憶化に関する包括的研究	基盤研究(C)	2019年4月	2022年3月	代表
14	安保寛尚	アフロキューバ主義における混血アイデンティティの言説形成プロセスの解明	基盤研究(C)	2018年4月	2021年3月	代表
15	岡本広毅	J. R. R. トールキンの中世英語英文学研究と「ファンタジー」創作を巡って	若手研究	2019年4月	2022年3月	代表
16	西山淳子	時間と相の副詞の意味論・語用論に関する日英対照研究	基盤研究(C)	2020年4月	2023年4月	代表
17	吉田恭子	英語圏モダニズム文学における複数の時間性に関する包括的研究	基盤研究(B)	2020年4月	2024年3月	分担
18	吉田恭子	冷戦期東アジアにおける創作教育、文学、大衆文化	国際共同研究加速基金(国際共同研究強化(B))	2019年4月	2023年3月	分担
19	吉田恭子	冷戦期創作科教授哲学と20世紀アメリカ文学の研究:自由陣営文学における自己検閲	基盤研究(C)	2018年4月	2022年3月	代表
20	岡田 桂	スポーツにおけるLGBT「主流化」の傾向とその問題点に関する研究	基盤研究(C)	2019年4月	2023年3月	代表
21	岡田 桂	「エンパワーメント」言説/表象からみる女性スポーツ政策の政治性に関する研究	基盤研究(C)	2019年4月	2022年3月	分担
22	二宮周平	親の別居・離婚における子の権利保障システムの構築	基盤研究(B)	2019年4月	2023年4月	代表
23	泉谷 瞬	プロレタリア文化運動研究:地方・メディア・パフォーマンス	基盤研究(B)	2018年4月	2023年3月	分担
24	丸山里美	日本社会における困窮女性の実態把握と売春防止法改正に向けた理論的研究	基盤研究(C)	2018年4月	2021年3月	代表
25	金友子	離散民の祖国志向の歴史・社会的構築性に関する研究	基盤研究(C)	2018年4月	2022年3月	代表
26	川端美季	帝国日本の植民地における衛生規範の確立—公衆浴場の普及に注目して	若手研究	2018年4月	2021年3月	代表
27	木村朗子	震災後文学の研究と国際研究ネットワークの構築	基盤研究(C)	2020年4月	2022年3月	代表
28	堀江有里	日本におけるクエア神学の文脈化をめぐる研究—「解放の神学」アプローチの可能性	基盤研究(C)	2017年4月	2021年3月	代表
29	姫岡とし子	近代ドイツのナショナリズムとさまざまな女性運動—日本のフェミニズムも含めて	基盤研究(C)	2017年4月	2022年3月	代表
30	RAJKAI Zsombor Tibor	家族変動と個人化に関する社会学的な言説の国際比較研究:ユーラシア地域を事例に	基盤研究(C)	2018年4月	2023年3月	代表

